

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270101458
法人名	社会福祉法人ほのぼの会
事業所名	あかねの里
所在地 (電話番号)	出雲市上岡田町1031-1 (電話) 0853-62-3133

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月18日

## 【情報提供票より】(20年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 7 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	20 人
職員数	21 人	常勤	13 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 21.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造亜鉛メッキ鋼版葺平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380 円			

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	20 名	男性	0 名	女性	20 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	きさ内科・皮ふ科クリニック、さとうクリニック、わかば歯科、牧野内科医院
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や田畑など、自然を身近に感じることのできる環境に立地するこのホームは、設立当初から、地域とともに歩んできた経緯があり、地元住民が気軽にホームに立ち寄ることをはじめ、自治会と共同でイベント開催や避難訓練を行うなど、すでに地域に溶け込んだ状況である。  
 管理者、職員ともに、利用者の思いを第一とした支援がなされ、調理や食後の後片付け、共用スペースで談笑することをはじめ、利用者それぞれが、思い思いに過ごしているとともに、職員も利用者個々の残存能力を活かし、自立支援にこだわった支援がなされている面が多くみられた。  
 法人では、特別養護老人ホームをはじめ、2か所のデイサービスなどを運営しているが、運営者、管理者共にグループホームの特性を理解しており、同一法人でありながら、グループホームの職員の異動は行わず、また、異動がないことで、職員のマンネリが起こらないよう対策も講じている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、改善課題はあげられていないものの、ホームとしてもより質の向上を目指し、取り組んでいる。より利用者本位のサービス提供を目指し、評価をホームの質の向上の指標として捉え、活用している面が確認できる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。そして評価を基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺えた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的に開催され、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。会議録はファイリングし全職員への周知が図られ、必要に応じカンファレンスでも取り上げ、ホームの運営やサービス改善に生かす取り組みがなされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月利用者個々の担当者から、活動の写真を付け生活状況を記した(利用者個別の)ホーム便りが作成され渡されている。加えて、家族の来訪時等を利用してケア方法の変更、日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告が行われている。家族の面会時や家族会などで、話す時間をできる限り設け、家族からできる限り意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望は、ミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人として地域密着という点は重要視しており、イベント開催等、地域との連携を図っている。ホーム独自としても、利用者が近隣宅へ訪問し広報誌を配布する等、地域との関わりを深めるよう取り組まれ、これにより、住民がホームへ立ち寄る機会が増えるなど、徐々に結果が表れてきている。また、さらに地域との連携を密にするよう、法人全体として、またホームとしても積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念については、職員間でも協議がなされ、これを念頭に置いた支援がなされている。また、地域住民や地元自治会等への啓発も行われるなど、地域に根付いたホーム作りがなされている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議、処遇会議、施設内研修等で話し合い、いつも実践できるように心掛けられており、理念の具体化に向けた支援の構築がなされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、行事、地区の草刈り等への積極的な参加など交流に努めているとともに、今年度より「地域で子供を育もう」との主旨のもと、保育所との交流にも力を入れている。また退所した利用者の家族や、元職員とも交流が続けられており、併設の交流ホール活用を含め、地域のボランティアや児童、学生との交流に積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を、職員全員で行い、ホームの問題点を見出すなど、運営者、管理者、職員ともに、評価の意義について十分に理解しており、これを活かしたホーム作りを行おうとする姿勢が感じられた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、職員、行政関係者、家族会代表、簡易郵便局長をメンバーとして2カ月に1回定期的で開催されている。開催時間が日中のこともあり、参加が難しい方もあるが、会議ではホームの現況報告や行事等の報告がなされ、参加メンバーから意見をもらうようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と入居者の状況、対応等の相談をしながらサービスの課題解決に向けて協議するなどその都度、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りでホームでの利用者の暮らしぶり等が報告されている。来訪した家族とも積極的に話す時間を設け情報提供を行っている。日ごろの暮らしぶりが写真で張り出され家族も日頃のホームでの様子が分かり喜んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱や法人苦情委員会が設置され、家族が意見や苦情を出しやすい環境が作られている。出された意見や不満など管理者、職員で共有し家族とともに話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者ともに、グループホームの特性を十分に理解しており、法人内での職員異動は行われていない。また、離職者もほとんどなく、異動等による入居者への影響は発生していない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、及び各ユニットの計画作成担当者は、認知症介護実践研修を受講している。出雲市GH連絡協議会にて研究発表など行い積極的に機会を捉えている。外部研修には順次参加しており職員の一人一人のスキルアップを目指している。毎月の内部研修に外部講師を呼び、質の高い内容により職員の質の確保がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市GH連絡協議会への参加をはじめ、地域の同業者との交流継続、開設者、実践者研修での他施設実習の受け入れを行うなど事業所や地域全体としてのサービス水準の向上に向けた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問やホームの見学、体験などを通し馴染みの関係をつくった上でサービスが利用出来るよう配慮されている。また施設等から直接利用になった場合にも、家庭訪問や家族の協力のもと、本人の安心と納得が得られるまでは出来るだけ多くの時間を作り混乱を最小限に抑えられるようにされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者から学ぶ場面が見られるなど、一方的な立場におくことなく、ともに協力しながら生活をしている面が多く確認できた。ホームとしてもこのことを重要視しており、職員も常に意識しながら日々の業務にあたっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人はもとより家族の意見も取り入れ本人の意向の把握に努めている。本人の意向の把握が困難な場合でも、関係者で本人の視点に立って話し合われ職員の都合にならないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。処遇会議等で意見を出し合い職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の定期的な見直しはもちろんのこと、入居者の状況により随時見直しが行われている。日々の業務で協議がなされ職員間の共有面についてもきちんと仕組みができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また併設するデイサービスを活用するなど事業所の機能を活かした支援もなされている。また家族の希望があれば宿泊の対応もなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人、家族の希望に沿うようかかりつけ医による医療が受けられるよう支援している。医療機関とも常時連絡が取れるよう密に連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にケアについては、ホームとして出来ること出来ないことを、家族に伝え、医療機関の協力を得、利用者が安心して終末期を迎え、過ごせるような取り組みがなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	調査訪問日も入居者一人一人に合った言葉かけや対応がなされており、内部研修でもプライバシーや個人情報保護について職員が理解に努め一人ひとりの誇りを尊重したケアが提供されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れは持っているが一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して個々の要望を大切にした柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者とともに食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を行うなど、楽しむことができる雰囲気作りがなされている。またホームの畑で入居者と育てた季節の野菜などが彩りよく調理され「目で楽しむ食に」にも重点が置かれ、利用者を楽しませている。調査訪問日も家で食事をしているような楽しい雰囲気を味わえた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間や午前中の入浴希望者がいないため、現在は午睡の後に集中しているが、夜間、午前ともに、利用者の希望に対応できるよう体制が整えられている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を把握がなされ、生け花、畑仕事、切り干し大根作り、習字など、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また地域の行事への参加や併設する交流ホールでの様々な交流会でも入居者の活力を引き出す支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物、畑での野菜の収穫、墓参り、ドライブ等、外出希望者に対してはそれに合わせ対応している。重度化が進んでいるがドライブ等、積極的に取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、各ユニットの玄関を含め、鍵を掛けられることはなく、自由に出入りができるなど支援している。3ユニットの職員が連携し見守りや安全面に配慮して自由な暮らしを支える支援がなされている。夜間は、防犯上の理由により、施錠されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民参加のもと、地域との合同避難訓練を年2回実施しており、災害時の協力が得られるよう、体制づくりがなされている。また地域消防団とも話し合いの場を設け協力依頼がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、木目を基調とした温かさを感じる造りとなっており、使い込まれているテーブル、椅子の設置など、心地よく過ごせる空間作りがなされている。訪問時、利用者それぞれが、共用空間で思い思いに過ごしている風景が確認できた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具等が持ち込まれていたり、それぞれの写真や作品等も飾られそれぞれに個性のある居室になっている。		